

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472301074	事業の開始年月日	平成17年10月1日	
		指定年月日	平成17年10月1日	
法人名	有限会社 フェルシ			
事業所名	グループホーム ぼぼ箱根板橋			
所在地	(〒250-0034)			
	小田原市板橋933-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和2年10月5日	評価結果 市町村受理日	令和3年2月10日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ホームの目の前に小田原市の郷土資料館があり、四季折々の花を楽しめる環境に立地しています。 ホームでは日課として、体操、散歩、歌のレクリエーション等を行い、ご利用者の心身の活性化を図っています。 また、厨房職員を配置しており、手作りの食事を提供しています。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年11月25日	評価機関 評価決定日	令和3年1月22日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

当事業所は、箱根登山鉄道の箱根板橋駅から徒歩約10分の閑静な住宅地に立地している。近くには松永記念館や香林寺など、歴史的価値のある庭園や寺院が点在し、利用者の毎日の散歩コースになっている。建物は木造2階建てで、1階の床は楓材、2階の床は桜材を使用して木の温もりが感じられる和風づくりである。法人はグループホームのほか訪問サービス、デイサービス、居宅介護支援事業所、移動サービスなどを運営している。

【理念に基づく支援の実践】

「家庭的な雰囲気大切にします」「心身の活性化を目指した環境を作ります」「安心した生活が送れるようお手伝いします」の3つを事業所の理念としている。職員は笑顔で声掛けや誘導をして、家族の一員として利用者に接している。木の温もりが感じられる室内や、玄関や洗面台に飾られた季節の草花が家庭的な雰囲気を醸し出している。

旬の食材を使った毎日の食事は、厨房職員が手作りを提供している。利用者は天気の良い日の散歩や、体操やスクワット、多様なレクリエーションを楽しんで心身の活性化を図っている。利用者が自らできることにはあまり手出しせず、最小限の手伝いで見守りに努めている。

職員は、利用者の声を傾聴し、思いや意向を丁寧に把握して、利用者の不安を取り除くよう努めている。介護計画に沿った支援を実践するため、「サービス計画チェック表」を活用して、サービス内容と日常の支援の連動を図っている。協力医と看護師とはオンコールで24時間連絡が取れる体制になっており、安心な医療体制が確保されている。

【職員の主体的な支援と働きやすい環境づくり】

職員は、介護計画作成において、原則、全職員参加のカンファレンスで、活発な意見交換をしている。事業所の運営にも積極的に関わり、年間行事の企画は、職員が役割を分担し、責任をもって実施している。ハロウィンでの仮装パーティーを開催したり、誕生会には全職員からのお祝いメッセージカードが添えられた手作りのカードを贈っている。管理者は、年2回職員との個人面談を実施し、個別に目標などを確認して、やる気を引き出し、職員が働きやすい環境を作っている。資格取得のための講習や試験日は出勤扱い、育児短時間勤務制度の活用などの取り組みをしたり、タブレット端末を導入して業務の効率化を図っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームほほ箱根板橋
ユニット名	かえで

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に対して、朝の申し送り時理念を管理者、職員で復唱する事で理解に向けた働きかけを行っている。	理念は、開所時に管理者と職員で作成し、事務所に掲示して朝の申し送り時に唱和している。木の温もりのある建物で、食事は食材を調達し、厨房職員が手作りしている。利用者は、できることを自ら手伝い、普通の家庭の日常の暮らしがある。毎日天気の良い日は散歩を楽しみ、体操やスクワットなどをして、心身の活性化を図っている。出来ることは利用者がやるように努め、職員は見守りを重視している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや防災訓練に参加し交流する事としているが、今年度はコロナウイルス感染症のため、お祭りや他自治会の行事が中止になっている。	大窪自治会に加入している。新型コロナウイルス感染症対策で多くの地域行事や高校生・中学生の職場体験、ボランティアの受け入れを中止している。地域行事のどんど焼きに利用者が参加して、ふるまいのお汁粉を頂き、地域の方と交流を楽しんだ。土・日曜日の散歩時には観光客と会話をすることもある。買い物は、地元の商店を利用し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も引き続き介護相談日を毎月11日に行う予定でしたが、コロナウイルス感染症の拡大を懸念し暫く中止としている。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年2月に運営推進会議を開催後4月からは、コロナウィルス感染症の為、書面での運営推進会議を行っている。</p>	<p>今年度4月からは、書面での運営推進会議としている。参加者は、家族、自治会副会長、民生委員、オーナー、地域包括支援センター職員、管理者、職員である。事業所から運営状況や事故報告をし、地域からの情報などについて意見交換している。また、外部評価結果も報告をしている。地域包括支援センター職員から、面会について、家族の意向や感想はどうかとの質問があった。家族の声を確認して、利用者との面会を望む声が多く、家族のみの短時間の面会を、嚴重な新型コロナ感染症対策のもと、居室で実施するようにしている。面会実施後、家族から感謝の言葉を頂いている。</p>	<p>前回の目標達成計画を継続させて、運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、年間6回実施されることを期待します。新型コロナ感染症収束後、事業所の秋祭りや、避難訓練時と連動させて、実施されることを望みます。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>申請代行や生活保護受給者の手続き等の際、困った事等相談する機会を設けている。</p>	<p>小田原市高齢介護課への要介護認定の更新申請代行や、生活保護受給者のおむつ代の請求などで連携を取っている。通常は出向いていたが、新型コロナ禍以降は行政の要請で郵送での手続きになっている。小田原市グループホーム連絡会の総会に出席し、他の事業所との情報交換をしている。「RUN伴+小田原」は、中止になったが、「スマイルピクチャーリレー・2020」という「離れていても思いは一緒」のスローガンのもと、各事業所が写真を撮り、リレー方式でSNSに画像を投稿し、繋がっていくことの大切さを確認する取り組みを12月に予定している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度「身体拘束適正化委員会」を開催し身体拘束廃止に向けて、取り組みを行っている。	身体拘束をしない旨、運営規程に明記している。「身体拘束適正化委員会」を3ヶ月毎に開催し、議事録を残している。玄関の鍵は開放しているが、1階フロアの鍵は家族の了解のもと安全対策として掛けている。外出したい素振りが見えた方については、職員と一緒に散歩に出掛けたりして、対応している。職員の強い口調や否定的な言葉などについては、管理者が研修を実施し、更に日ごろの支援の中で常に注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待行為を否定し、人権を尊重している。 身体拘束廃止に向けた研修に職員に取り組んでもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員、管理者は権利擁護に関する研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、変更等が生じた場合は、その都度丁寧に説明を行っている。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の面会時、ご本人の様子等を伝えまた、ご家族からの意見や要望を伺うようにしている。 ご家族からの意見等はカンファレンス時、職員に伝えている。</p>	<p>家族からは電話で意見や要望を聞いている。新型コロナウイルス感染症対策による短時間の居室での面会時にも話を聞く機会がある。書面での運営推進会議や介護計画の更新時にも家族からの意見や要望を把握している。利用者についてはその都度、日常の支援の中で意見や要望を把握するように努めている。昨年の事業所の「秋祭り」などで、利用者家族間の交流が図られ、親睦が深まったという声があった。継続させるために家族会を立ち上げようと検討している。3ヶ月ごとに法人が「ぼぼ便り」を発行し、法人と事業所の活動状況や行事案内などを知らせている。</p>	
----	---	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のカンファレンスに出席し、職員と意見交換を交わしている。また、個々に意見を聞く機会を設けている。	朝夕の引継ぎ時や毎月のユニット会議を兼ねたカンファレンスで、職員の意見や要望を聞いている。年2回管理者と職員の個人面談があり、事業所の方針を話し、意欲をもって働けるように、どのようなことをやってみたいかなど要望を聞いている。職員から、毎月利用者の状況を知らせる「お便り」と写真の送付、家庭菜園作り、ドライブなどの提案があり、実施に向けて検討している。毎月の行事については、職員が担当制になっており、企画から実施まで主体的に運営している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握し、賞与査定時に反映させている。 また、経験年数に応じステップアップのための研修に参加させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や資格取得のため勤務しながら研修が受けられるよう便宜を図っている。		

14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市グループホーム連絡会に参加。会員施設のケアスタッフが研修時に参加し易い環境を作っている。		
----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には、まず施設見学をして頂き、入居に関して不安な事、困りごと等を丁寧に伺い安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階で、現在の本人の状況を確認し、ご家族の不安感や困りごと、要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に在宅サービスをプランニングしていたケアマネージャーに連絡し、状況を確認するとともに自宅等へ訪問して、アセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中なら、昔の風習などをご利用者から教わり、一緒に生活する者同士の関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にご本人の日々の状況を説明し、ご本人の望む暮らしをどのように提供できるかご家族に出来る事、施設で出来る事を一緒に話合えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも面会に来られるよう、施設をオープンにしている。 また、手紙や電話等の代行をし、馴染みの関係を継続し易いよう配慮している。	友人や知人の来訪は現在お断りしており、家族のみ面会を実施している。手紙の宛名書きや携帯電話のかけ方を教えるなどの支援は実施している。家族対応で墓参りに行ったり、自宅に泊まられる方がいる。新聞を継続して購読したり、和裁の得意な方が、職員と一緒に台布巾などを縫っている。習慣として毎日化粧や身支度としてエプロンをする方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で行うレクリエーションや洗濯畳などの作業を中心に日中は出来るだけリビングで過ごして頂くよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もしご家族から相談があった時には、守秘義務に配慮しながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時やケアプランの更新時等に、ご家族やご本人から希望を聞いている。 また、日常の関わりのなかでもご本人の思いを把握するよう努めている。	職員は1対1の場面を大切にして、利用者の思いや意向を把握している。意思疎通の困難な方には、表情やしぐさなどから把握するように努めている。重度で寝たきりになっている方の居室の前を通るときには、必ず声をかけることを心掛けている。不安を抱えている新入居の利用者に対して、丁寧に傾聴し、少しずつ不安を取り除くように努めている。把握した思いや意向は「介護支援経過記録」に記録して、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴について聞き取りをし、現在の生活状況等の確認も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操、散歩等を日課として行っている。一人ひとりの趣味などの把握に努め、また、一人ひとりの心身状態や有する力の把握に努めている。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>1回/月カンファレンスを全職員参加で行っている。利用者のケアで気づいた事を話し合い、時には家族との話し合いを持ちながら、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>はじめにアセスメントを実施し、利用者や家族の意向や要望を把握している。その後介護計画を作成し、1ヶ月様子を見て、介護計画を見直している。短期目標は6ヶ月、長期目標は1年で、変化のある時にはその都度見直しをしている。医師や看護師の意見は往診時の「訪問診療議事録」などから把握し、介護計画に反映させている。更新時には事前に家族の要望を把握し、計画に活かしている。見直しは原則職員全員が参加するカンファレンスで行い、活発な意見交換をしている。介護計画のサービス内容を「サービス計画チェック表」に記入して、職員は常に確認し、介護計画のサービス内容と日々の支援の連動を図っている。日常の支援の状況把握はタブレット端末を活用している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>生活記録簿にケアの実施、工夫などを記録し、職員間で情報共有を行っている。得た情報を介護計画の見直しに活かしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内グループのマンパワーを活用し、柔軟な支援体制を確立している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを活用し、懐かしい曲を鑑賞したり唄ったりしながら、日々の暮らしを楽しまれている。 今年は、コロナの為、2月よりボランティアの来園をお断りしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご家族対応でかかりつけ医に通院されている	利用者全員が、協力医の内科を受診している。バルーンカテーテルを装着されている利用者が、NPO法人の移動サービスを利用して泌尿器科に通院している。協力医と歯科医の往診は月2回で、歯科衛生士が口腔ケアの指導をしている。訪問マッサージ師を利用する方が3名で月2回の来訪がある。非常勤の看護師2名が交互に、午前中3時間出勤している。看護師が週6日配置され、職員からの相談や必要なことを往診医につないでいる。受診内容は「訪問診療議事録」に記入し、職員間で共有している。かかりつけ薬局から月2回、一包化した薬が届けられる。職員がそれぞれ利用者ごとにセットし、服薬の際には職員相互のチェックで管理している。協力医と看護師はオンコールで、24時間連絡が取れる体制になっている。		

31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員は、日常で気づいた情報を看護師に伝え相談している。看護職員は利用者に対し状況に応じて診察を受けられるよう支援している。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、介護サマリーを作成し、ご本人の状態について情報提供している。急性期が過ぎた段階で速やかに退院できるよう、医療機関と連携をとっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りについての説明を行っている。 また、重度化した場合や終末期の在り方については、訪問診療医、ご家族、職員とで情報を共有し、支援にあたっている。	入居時に重要事項説明書で看取りについて説明している。重度化が進んだ場合には、家族の意向を把握して「看取り介護指針」の内容を説明し、「看取り介護についての同意書」を取り交している。本年度3名の看取り実績がある。研修はカンファレンスでその都度実施しており、職員は落ち着いて「看取りについてのマニュアル」に基づいて対応している。利用者の動揺はなく、静かにお見送りしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や事故発生時に備えて、緊急対応マニュアルが作成されている。 応急時の対応についても行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っている。 今年は、コロナのため7月に消防署に通報する訓練は行わず火災避難訓練を実施した。 11月に夜間を想定した火災避難訓練を実施する予定。	年2回、昼間と夜間を想定した避難訓練を実施している。消防署の立ち合いはなく、地域の方の参加もない。地域の避難訓練には利用者数名と参加しているが、今年は中止になっている。家具などの転倒防止の処置をとっている。備蓄は飲料水、白飯のパック、即席豚汁、防寒シート、カセットコンロにガスボンベなどで、リストで管理している。	新型コロナ感染症収束後は、事業所の避難訓練に地域の方の参加を運営推進会議などで呼び掛けることを希望します。備蓄についても簡易トイレやLEDのランタン照明など、必要な備品の再度見直しを期待します。広域避難所の松永記念館まで実際に利用者が避難できるか、避難訓練に取り入れることを要望します。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、トイレ、入浴介助時は、プライバシーに配慮しながら行っている。	管理者は、毎年研修を実施し、利用者の尊厳を守るように言葉遣いなどについて指導している。トイレ誘導の際には小声で、周囲に気づかれないようにして誘導している。排泄時にはドアを開放したままにしないように、居室に入るときはノックをするように注意している。個人情報の記入された書類は1階の事務所の鍵の掛かる戸棚に保管している。パソコンは使用者を管理者・主任等で区分し、パスワード管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間などに、ご利用者方々から希望を聞いている。その中で出来る事を提案しながら、ご利用者が決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーティンとしての日課はある程度決まっているが、ご本人のペースで行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や乳液など希望された時は、要望に応じて購入している。また、ご利用者の希望に併せて訪問理美容を提供している。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お正月、花見などその時期にしか召し上がれない旬な食材を提供している。	食事は厨房職員が食材を調達し、調理している。食材は地元の商店で新鮮なものを購入し、献立も厨房職員が利用者の声を聞いて作成している。利用者はテーブル拭きや食器拭き、野菜の筋取りなどの下処理など出来ることを手伝っている。誕生日には赤飯、正月にはおせちを楽しみ、今年のクリスマスには料理に加え、ロールケーキへの果物などのトッピングを利用者に手伝わってもらうことを企画している。利用者の体調に応じて、とろみやきざみ食などの食形態にも対応している。	
----	----	--	------------------------------------	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、栄養バランスを考慮し提供している。水分は、食事以外でも提供し1日の水分量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自身で行った後、必要に応じて職員が口腔内のチェックを行っている。 また、1回/月、歯科衛生士による口腔指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄の管理を行っている。1人ひとりに声かけを行い自立に向けた支援を行っている。	一人でトイレに行かれる方が9名で、全介助で紙おむつを使用している方が1名、他の方は、排泄チェック表でパターンを把握して、声をかけてトイレ誘導している。夜間は利用者ごとに、定期的に声をかけてトイレ誘導したり、睡眠を優先して、リハビリパンツやパッドのサイズを調整している。夜間ポータブルトイレを使用している方が1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後に体操を行い、散歩を日課としている。 食事面では、食物繊維の摂取にも心がけている。 排泄状態の把握に努めている。		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その日の体調や希望に合わせて、個別対応を心がけている。	入浴は基本的には週2回で、午後の入浴であるが、毎日入浴したいなどの要望があれば対応できる体制になっている。同性介助については、入居当初の方は要望があり、対応していたが、慣れるにつれて要望はなくなっている。体調に応じてシャワー浴に変更する方がいる。浴室は乾燥機付き温風ヒーターが設置されており、ヒートショック対策がなされている。ゆず湯や菖蒲湯などを楽しむこともある。	
----	----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息への声掛けを行っている。 日中の適度の運動により安心して気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を確認し理解している。 月初めに体重測定を行い、体重の変化や異変について確認出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事などを、一人ひとりの状態に合わせて皆で行っている。 1人ひとりが役割を持ち、楽しみながら生活できるような支援を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出掛けられるよう散歩を日課としている。	天気の良い日には、毎日近くの松永記念館や香林寺を散歩している。車椅子の方も一緒に出掛けている。玄関前のベンチで、日光浴や外気浴をする方もいる。2階のベランダでお茶を楽しむ方もいる。家族対応で墓参りや自宅に泊まる方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理は施設で行っている。ある程度の自己管理が可能な時は、少額の管理はして頂いている。購入希望のある時は一緒に買い物に出かけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵送された郵便物の代読を行っている。 携帯電話を持参されている方からかけ方が分からないと依頼のあった時は、通話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材を利用した建物で、木の香りや温もりが心地よい環境になっている。 玄関や洗面台に季節の草花を飾り、家庭的な雰囲気になるよう心掛けている。	リビングの窓は大きく、明るい日差しが入ってくる。床暖房や空気清浄器、加湿器が備えられて快適な環境にある。30分毎に5分位窓を開けて、換気に注意している。1階の床は楓、2階の床は桜の木で出来ており、木の温もりが感じられ、家庭的な雰囲気がある。清掃については利用者が手すりを拭いたり、モップを掛けるなど出来ることを職員と一緒にしている。壁には利用者の手作り作品などが飾られており、季節感がある。トイレ清掃は毎日2回のほか、必要に応じてその都度対応し、消毒などの感染症対策を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテーブルが置いてあり、いつでも交流できるようにしている。		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>遣い慣れた品物を入所時にお持ち頂けるよう、パンフレットに明記し、慣れ親しんだ住居空間に近づけるようにしている。</p>	<p>空調設備や照明器具、防災カーテンが備えられている。前の利用者が退所して、残っていたものを使う方もいる。利用者は、テレビやタンス、仏壇、位牌、家族の写真など馴染みのものを持ち込んでいる。居室の清掃は職員と利用者が出来ることを一緒にしている。清掃後には窓を開けて換気には注意している。居室担当が季節の衣服の入れ替えや、備品の確認などについて担当し、利用者家族の連絡窓口である主任を通して利用者家族に連絡し、対応している。表札は木製でクリスマスの装飾などが飾られている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、廊下、風呂場等に手すりを配置し、自立を促すよう配慮している。</p>		

事業所名	グループホームほぼ箱根板橋
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に対して、朝の申し送り時理念を管理者、職員で復唱する事で理解に向けた働きかけを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや防災訓練に参加し交流する事としているが、今年度はコロナウイルス感染症のため、お祭りや他自治会の行事が中止になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も引き続き介護相談日を毎月11日に行う予定でしたが、コロナウイルス感染症の拡大を懸念し暫く中止としている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年2月に運営推進会議を開催後今年度、4月からはコロナの為、書面での運営推進会議を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	申請代行や生活保護受給者の手続きの際、困り事等相談する機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度「身体拘束適正化委員会」を開催し身体拘束廃止に向けての取り組みを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見 overs されることのないよう注意を払い、防止に努めている	職員は虐待行為を否定し、人権を尊重している。 身体拘束廃止に向けた研修を職員にとりくんでもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員、管理者は権利擁護に関する研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、変更等が生じた場合は、その都度丁寧に説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、ご本人の様子等を伝えまた、ご家族からの意見や要望を伺うようにしている。 ご家族からの意見等は、カンファレンス時職員に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のカンファレンスに出席し、職員と意見交換を交わしている。 また、個々に意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握し、賞与査定時に反映させている。 また、経験年数に応じ、ステップアップのための研修に参加させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や資格取得のため勤務しながら研修が受けられるよう便宜を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市グループホーム連絡会に参加。会員施設のケアスタッフが研修時に参加し易い環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には、まず施設見学をして頂き、入居に関して不安な事、困りごと等を丁寧に伺い安心して頂ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階で、現在の本人の状況を確認し、ご家族の不安感や困りごと、要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に在宅サービスをプランニングしていたケアマネジャーに連絡し、状況を確認するとともに自宅等へ訪問して、アセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、昔の風習などをご利用者から教わり、一緒に生活する者同士の関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等にご本人の日々の状況を説明し、ご本人の望む暮らしをどのように提供できるか、ご家族に出来る事、施設で出来る事を一緒に話合えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも面会に来られるよう、施設をオープンにしている。 また、手紙や電話等の代行をし、馴染みの関係を継続し易いよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で行うレクリエーションや洗濯量などの作業を中心に日中は出来るだけリビングで過ごして頂くよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族から相談があった時には、守秘義務に配慮しながら対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時やケアプランの更新時等に、ご家族やご本人から意見や希望を聞いている。 また、日常の関わりの中でもご本人の思いを把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴について聞き取りをし、現在の生活状況等の確認も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操、散歩等を日課として行っている。1人ひとりの趣味などの把握に努め、また、1人ひとりの心身状態や有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月カンファレンスを全職員参加で行っている。利用者のケアで気づいた事を話し合い、時には、家族との話し合いを持ちながら、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録簿にケアの実施、工夫などを記録し、職員間で情報共有を行っている。 得た情報を介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内グループのマンパワーを活用し、柔軟な支援体制を確立している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを活用し、懐かしい曲を鑑賞したり、唄ったりしながら、日々の暮らしを楽しまれている。 今年は、コロナの為、2月よりボランティアの来園をお断りしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、かかりつけ医にかかっている方はいません。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常で気づいた情報を看護師に伝え相談している。 看護職員は、利用者に対し状況に応じて診察を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護サマリーを作成し、ご本人の状態について情報提供している。 急性期が過ぎた段階で速やかに退院できるよう、医療機関と連携をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、看取りについての説明を行っている。 また、重度化した場合や終末期の在り方については、訪問診療医、ご家族、職員とで情報を共有し、支援にあたっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や事故発生時に備えて、緊急時マニュアルが作成されている。 応急時の対応についても行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っている。 今年は、コロナの為、7月に消防署に通報する訓練は行わず、火災避難訓練を実施した。 11月に夜間を想定した火災避難訓練を実施する予定。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、トイレ、入浴介助はプライバシーに配慮しながら行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間などに、ご利用者方々から希望を聞いている。その中で出来る事を提案しながら、ご利用者が決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ルーティンとしての日課はある程度決まっているが、ご本人のペースで行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水や乳液など希望された時は、要望に応じて購入している。また、ご利用者の希望に併せて訪問理美容を提供している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お正月、花見などその時期にしか召し上がれない旬な食材を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、栄養バランスを考慮し提供している。水分は食事以外でも提供し1日の水分量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自身で行った後、必要に応じて職員が口腔内のチェックを行っている。 また、1回/月、歯科衛生士による口腔指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄の管理を行っている。1人ひとりに声かけを行い、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後に体操を行い、散歩を日課としている。 食事面では、食物繊維の摂取にも心がけている。 排泄状態の把握に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その日の体調や希望に合わせて個別対応に心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息への声かけを行っている。 日中の適度の運動により安心して気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を確認し理解している。 月初めに体重測定を行い、体重の変化や異変について確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事などを、1人ひとりの状態に合わせて皆で行っている。 1人ひとりが役割を持ち、楽しみながら生活できるような支援を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩出掛けられるよう散歩を日課としている。 彼岸時、ご家族と一緒に墓参りに出掛けられた。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理は施設で行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届いた郵便物の代読を行っている。 また、携帯電話を持参されているご利用者に電話をかけたいとの希望がある時はお手伝いしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材を利用した建物で、木の香りや温もりが心地よい環境になっている。 玄関や洗面台に季節の草花を飾り、家庭的な雰囲気になるよう心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテーブルが置いてあり、いつでも交流出来るようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	遣い慣れた品物を入所時にお持ち頂けるよう、パンフレットに明記し、慣れ親しんだ住居空間に近づけるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、風呂場等に手すりを配置し、自立を促すよう配慮している。		

目標達成計画

事業所名 スル-7-0-0 (株) 福崎根極務

作成日 令和3年2月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		年6回開催し、 以下ならない 運営推進会議を 5回の開催としたい。	年間を通じて6回の 開催を目標とする。	・年度始めに開催時、 ・おし合を機にアポイント 計画を立てる。 ・避難訓練に地域住民 参加を運営推進会議で 検討する。	令和3年4月1日 S 令和3年3月31日
2		本域避難場所として 松永記念館にて 避難訓練を行うこと はない。	松永記念館にて 避難訓練を行う。	・地域住民の協力を 得て避難訓練を 行う。	令和3年4月1日 S 令和3年3月31日
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。